

在ブダペスト

日本人会会報

ドナウ通信

御挨拶

1992年11月

ブダペスト商工会幹事

丸紅ハンガリー会社社長

萩原 宏信

この十月より来年三月までの半年間、ブダペスト商工会の幹事を務めさせていただくことになりましたので紙上をお借りして一言御挨拶させていただきます。

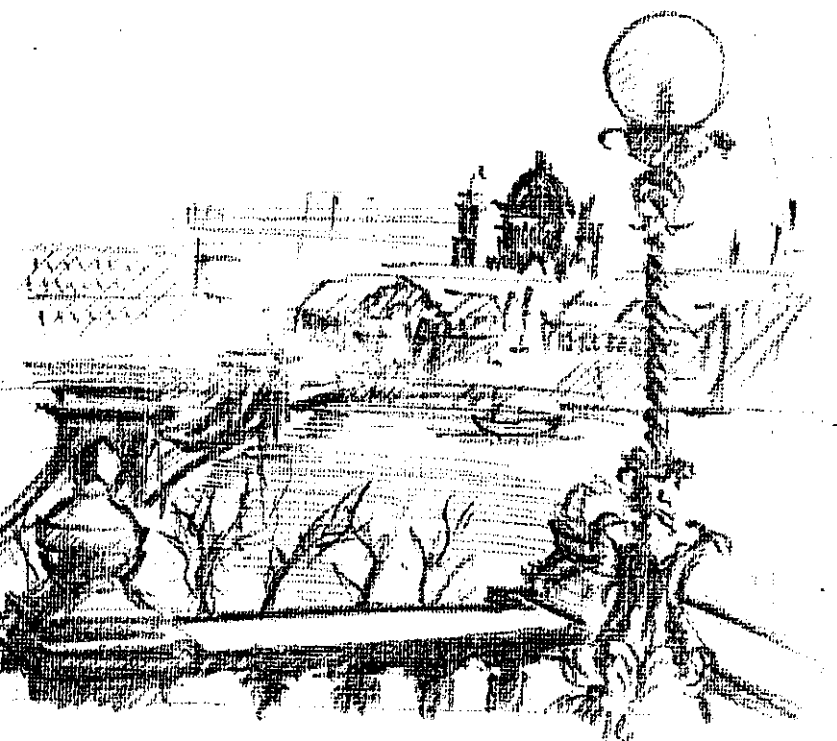
本会は在ハンガリーの日本企業が円滑なる活動を行う為その共通する問題に関しての情報交換の場となることを当初の目的として発足致し、現在その会員数は名誉会員の大使館を含め28社となっています。

本会の活動はその目的から経済面での活動が中心ですが近年の日本・ハンガリー両国の交流の深まりと共に最近では文化面での活動も次第に重きを増しています。

外国に住む日本人は、その国との文化交流という面でも現場の実践者であり、ブダペスト日本人会の皆様も様々な形で、日本・ハンガリー両国の文化交流に一役買っておられるのではないかと思います。本会も、日本人会への資金

協力等を通じその面に於いてもお役に立っているものと考えております。

世界の中の「日本」が問われる今、人間的な触れ合いの部分よりお互いの理解を深めていくことが期待されます。ブダペスト商工会としてもその活動を通じてそうした役割を果たしていくことが期待されます。幹事として微力ながらお世話させていただきましたと考えるのでどうぞよろしくお願い致します。以上



日本人会より

人物往来 (敬称略)

パスポートが新しくなります

11月1日、申請分から小型化されたパスポートが発給され、申請手続き等が変更になりますので御注意下さい。

なお、パスポートは次の通りに変わります。

・旅券のサイズが、縦125mm横88mmに小型化されます。

・表紙の色が、赤から紺に変更されます。

・氏名・生年月日等の身分事項が表紙見返しページに印刷されます。

*詳しくは、大使館領事部までお問い合わせ下さい。

(注：現在、お持ちのパスポートは有効期限までそのまま使用できます。)

1) 日本人会総会並びに寿司パーティ開催

1992年度日本人会総会、並びに例年好評の寿司パーティを12月5日

(土) 18時より開催いたしますので皆様万障お繰り合わせの上、御出席お願い申し上げます。

この地域にいるのは仕事の観点から言って興味深いことで積極的に取り組んでいきたいと思っております。

何はともあれ皆様方の御支援を頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

尚日本人会会費が未払いの方は、当日受付けでお支払い頂きますようお願い申し上げます。

2) コンサート

昨年引き続き本年も当地邦人留学生によるコンサートを12月19日(土)に開催する予定です。詳細は追って御連絡致します。

以上

△大使館関係▽

離任

水頭 清

10月

着任

長岡 恵

9月

△商工会関係▽

離任

久保居 正通

伊藤忠商事

8月

吉岡 尚道

三井物産

10月

松島 昌幸

住友商事

11月

着任

浅沼 範永

JETRO

9月

早崎 勉

三井物産

10月

工藤 英博

住友商事

11月

補習校便り

初めての修学旅行

補習校では小学6年生と中学3年生合わせて6名がこの10月初めてペーチへ1泊2日の修学旅行に行きました。補習校では今までに修学旅行はなかったのですが、子供達にもっとハンガリーのことを理解させたり、集団生活の在り方や公衆道徳などを身に付けさせたりするために行ないました。

初めての修学旅行ということで、子供達は行く前からとても楽しみにしており、ペーチの歴史や自分の見たい所を積極的に調べている子供達の姿を見ていると修学旅行を企画して良かったなと感じました。

みなさんもご存じのように、ペーチはブダペストから南に約200kmの所にあります。この町は、古いたずまいの家並が多く残っており、見所の多い町です。

電車で揺られて3時間。ペーチに到

着し、最初に行った所は展望台です。

この展望台は高さが534mのミナ山にあるテレビ塔の中にあり、ここからペーチの美しい町が一望できます。

昼食はこの展望台でとったのですが、冷たい風が吹き込みふるえながら弁当をたべました。

再び町へ戻りいよいよ見学の開始です。1日目はチョントヴァーリ美術館

・大聖堂・シナゴグに行きました。

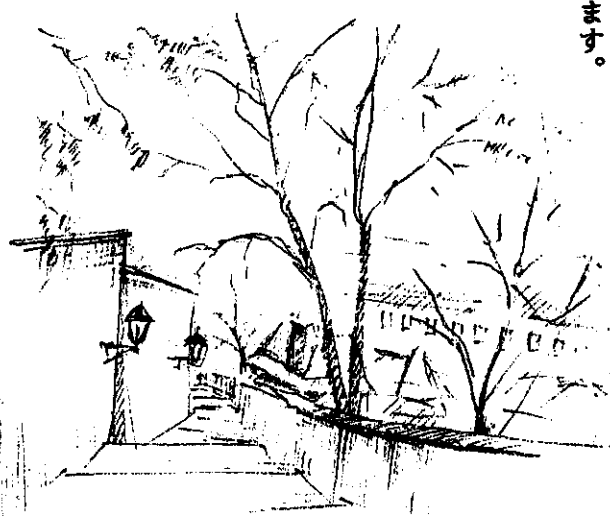
ホテルで楽しい一夜を過ごして2日目。この日は朝から雨模様で見学には最悪の天気でした。最初の見学場所はガレイ城です。この城はペーチから30km程離れたシクローシュという町にあり、ハンガリー屈指の中世の城といわれています。城の中の博物館を見学した後、周辺を散策するはずでした。しかし、雨と寒さのために中止し、予定より早くペーチに帰りました。

午後からは、子供達の自主性に任せ自分達が行きたい所を相談して見学させました。地図を片手に道に迷いながら、モスク・考古学博物館・ギャラリー

・水族館など色々な所を見学して回りました。子供達にとってはこの時間が一番楽しかったようです。

こうして全ての日程を無事終え、ブダペストに着いたのは、午後の8時でした。電車の中では疲れも見せずに楽しく遊んでいた子供達も、出迎えに来た家の人の顔を見ると何故かほっとした表情をしていました。

今回の修学旅行は天候に恵まれなかった面もありました。けれども、学校ではできない数多くのことが経験でき有意義な旅行であったと思います。来年以降もこの修学旅行を続け、さらに多くの経験や体験をさせたいと考えています。



案しかった修学旅行

6年 セーカチ・エステル

修学旅行で私が一番心に残ったことは、最後の日の市内見学です。この日の昼、レストランで食事をした後、2つのグループに分かれました。私のグループは、健君とタマーシ君と私と金子先生でした。先生は私たちの後をつけて来るだけでした。いよいよペーチの探検を始めました。

私たちは、しおりの裏の地図をたよって、最初の目的地、大聖堂に着きました。教会はおもしろくないので私は見るのはあまり好きではないのだけどこれは特別でした。とても大きくてすばらしかったです。

次にイスラム風のモスクを見に行きました。昔のハンガリー人達は、トルコ軍に悪い思い出があり、このモスクの内部だけキリスト風に建て直しました。だから、あまりきれいなモスクではありません。

それから、細い裏通りを違って水族館に行きましたが、その前にちよっと道に迷ってしまいました。それは、私のせいでした。私は、
「百パーセントだじょうぶ。百パーセントだじょうぶ。」
と言って、みんなを反対の方向につれて行ってしまいました。でも、運良くもう1つのグループも水族館へ行ったので、一緒に行くことができました。



そして、最後に行った所は、ペーチ・ギャラリーでした。ギャラリーではきれいなポスターがたくさんかざってありました。私は、このポスターを買いたかったけど、どれも売っていませんでしたので残念でした。

市内見学では見る所がたくさんあったのでおもしろかったです。今までは家族と一緒に博物館や教会を見るだけでしたが、修学旅行では友達と協力し合って行動し、公共の建物ではどんな態度をすればよいかを学びました。

この修学旅行では、合宿や普通の旅行では学べないことをたくさん勉強しました。例えば、合宿では、スポーツなどをして、色々な作品や建築物を見て回ります。家族の旅行では、私たちの代わりにお父さんやお母さんが地図を見て案内してくれます。

修学旅行はみんなのためになるものだから、来年もさ来年もずっとあってほしいと思います。

ハンガリー民俗あれこれ④

村のベストナイン

平賀 英一郎

民俗学者のなりわいは、新聞記者に似ている。人を訪ねて話をきくのが仕事だという点で。もっとも新聞記者が「事件」を追うのに対し、民俗学者はいうなれば「無事件」を求めるという違いがあって、これがどうやら決定的なだけだ。

そうやって村を歩きまわり、話をきくにしても、むやみやたらというわけにはいかない。民俗学者がさがすのも彼に必要な情報だ。その情報はどこに行けば手にはいるか。昔風の事柄をよく知っている篤実な老人、というのが求められる最良の人間像のだが、そういう人を見つげだすまでには、それなりに手続きがある。おじいさんに可愛がられ、おばあさんになついで育った人がいい。年寄りというの古いも

のを大事にするから、年寄りに育てられた人はそういうメンタリティをうけついでいる。(余談だが、核家族の欠点のひとつは新しもの好きばかりこしらえることだと思う。)民俗学者も、よい情報提供者をつかまえられるかに成否がかかっているという意味では、探偵に等しい。

ハンガリーにはどんな村にも簡単な居酒屋**szőlőház**がある。これは村のインフォメーション・センターだ。手取り早い情報はここで手にはいる。だいたい居酒屋にたむろしているのは、仕事を終えたか、抜けだしてきたか、あるいははじめから全然してないのや、とにかくヒマな人々だから、待ちかまえたように教えてくれる。ただしこみいった事柄についてきくには適してないし、酒場には酔っ払いという人達がいいて、あんまり時間をかけているとじわじわ近づいてきて、からみつかれて困ることがあるから、注意しないといけない。

学校の先生というのは、教育のある人々だから、もし村の事柄にくわしい教師に会えたらきちんと整理された情報が得られて助かることが多い。しかし教師にはあたりはずれがあって、それは司祭や牧師も同じだ。幸運にも民俗学に興味をもって、自身聞きあつめをしているような司祭にぶつかれば、これはもう鬼に金棒。でも期待しちゃういけない。教師も司祭も他村出身のものも多く、それに司祭は結局宗教家で、ドグマというものをもっているし、カトリックや改革派、その他、いくつかの宗派が共存している村では、他宗派のことに無知だったりする。そんなことはあっても、やっぱり司祭・牧師を訪ねないわけにはいかない。だいたい村で一番尊敬されている人だから、話をきくのには適当な人を紹介してもらおう。牧師さんがあなたを訪ねてみると紹介してくれたと言え、これはもう村のパスポートだ。教会は村の中心にある塔つきの建物だからすぐ分

かるし、司祭館はその隣の立派そうな家で、これも不案内なはじめての村では心強い。訪ねてくる人に助言を与えるのが商売だから、いきなり訪問しても、拒まれることがないのもありがたい。

「だけど村長はいけません。こと民俗学的情報となると、ああいう實際家はあんまり役に立たない。もちろん社会学的な傾向の調査では不可欠だし、いずれにしても重要度は高いわけだから先発メンバーをはずれることはないがせいぜい八番九番バッターと言うところ。出塁率十割に近い居酒屋は一番バッター。しかしロングヒットはなく、アホくさいミスも多い。教師は三番かな、打率も高く、長打もある。司祭は三振多く、本人は凡退することが多いのだけど、一発長打を秘めているため威圧感があって、衆目の一致する不動の十番打者。まずこんなところが村のベストナインだ。手合わせしてみますか。」

『ことばにまつわるお話』

第2回 相馬 笙子

⑥ 「MIGSODA? (ミチヨダ?)」

「味噌だ (ミソダ)」

日本から小包が来ました。開けると箱全体に味噌の匂いがします。透明の密封ポリ容器にはいつている味噌が開けられています。ハンガリー人に味噌なんて分かるはずありません。きっと「MIGSODA. (ミチヨダ) / 何だこれ」って開けてみたんだ。その場になくて真に残念! 「ミチヨダ?」「ミソダ」これいいかったな。



⑦ いくつですか。

私、東京の公立小学校で長らく音楽専科をしていました。ある時、6年生の授業をしているとトントンとドアを叩く音がします。開けてみると、真っ赤なほっぺの可愛い2年生が立っています。

「何か用ですか。」

「はい、タンバリンとカスターネットを貸して下さい。」

相手は可愛い2年生です。私はやさしく尋ねました。

「いくつですか。」

真っ赤なほっぺの男の子は、緊張の面もちでしばし考えてからこう言いました。

「ぼく、八才です。」

⑧ 日本語の母音は二つ

もう亡くなられた方ですが、大変素晴らしい指導力をもった高名な先生のお話です。ある時、東京児童合唱連盟という組織の月例研究会で研究授業をされました。その日のテーマは「美

しい発音で、正しい日本語で歌う」ということでした。何度か歌ったあと先生は発音についてお話しされました。

「発音には母音と子音があります。日本語の母音はいくつありますか。」ハイ、ハイとあちこちから手が挙がりました。先生は中でもお利口そうで、真面目そうな男の子を指しました。

「はい、ポインは二つです。」先生はにっこりされ、黒板にポインの絵を描かれ、

「そうですね。ポインは二つですね。でも母音は？」

と静かに尋ねられました。子ども達は笑うこともなく、その後も授業は着々と進められました。

⑨ 外国語習得の重要性

これは昔、週刊誌で読んだ話です。

とある街角で猫の親子が弾猛な犬と

ばったり出会ってしまいました。母猫

は娘猫を引っ立てて一目散に逃げまし

た。逃げてても逃げてても犬は追いかけて

きます。しまいにととう袋小路に追い詰められてしまいました。母猫はもうこれ以上は逃げられないと、意を決して思いきり恐ろしい声で「ワンー」と吠えました。犬はびっくりして踵を返して逃げていきました。

「こういうこともあるから、外国語の勉強は大事なのよ、お前。」母猫は娘にしみじみと言って聞かせたことでした。

⑩ ホルトバージュの有料トイレ

初めてハンガリーに来た年、ホルトバージュ大平原へ行きました。その時ハンガリーは夏真っ盛り、ひまわりの波に目を奪われ、陶然とした心地でホルトバージュに着きました。レストラんで休憩のあとトイレに行きました。入ろうと思ったら入り口の小部屋に坐っているおばさんが手を出すのです。

あっ、有料トイレと緊張しました。何

せ海外旅行はこの時が初めてです。い

くら渡せばよいか分かりません。あい

にく小銭はなく、百フォリント出して「おばさん、お釣りある？」もちろん日本語です。おばさんは、私の日本語に少しも怯まず、袋の中からザラザラとお金をあげ、「お釣りはない。」とハンガリー語で言いました。

誰かに小銭を借りなくては、と車に戻りましたが、同行のクローネルさんがいません。もう一人の同乗者、歯医者的小林先生は小銭を持っていません。そうこうしている内におばさんはトイレを離れてどこかへ行ってしまいました。ハンガリー語会話集で有料トイレは2 Ft位ということがやっと分かりました。その時おばさんが又戻ってきました。私は、「どうしても小銭がないの。」と日本語で言いました。するとおばさんは私の腕をむんずと掴んで、ぐんぐんトイレの方へ引っ張って行くのです。

こうして私は、有料トイレを無料で

使わせて貰いました。お礼に赤い小

な化粧ポーチをあげて、「KOSZONOM」

とこれだけはハンガリー語で言いました。おばさんはとても喜んでくれて、私のほっぺに、チュッ、チュッとキスしてくれました。私もおばさんの赤くて、黒いほっぺに感謝をこめて、チュッ、チュッとお返ししました。

最後にトイレのお話で恐縮でしたがこれはことばはなくても心は通じるというお話でした。「ことばって、おもしろい」という思いにとりつかれたのは、1985年ハンガリー語を勉強しはじめてから3年経った時でした。思いが昂じて、ハンガリーに住むことになりました。ハンガリー語と日本語を巡って、これからまだまだ沢山の面白い話や、ちょっといい話に出会えると思っています。

ハンガリー日本友好協会との交流を！

ハンガリー日本友好協会/MJBT
動は日本との交流を心から求める人達の手により、地道に続けられております。そしてこの度会長のDrラーツ・イシュトバーン氏が在日本ハンガリー大使として任命され赴任されたことは大変喜ばしいニュースと言えます。今回はMJBT協会便り第28号より情報を一部抜粋してみました。ドナウ通信としては来年度からはさらに一歩踏み込んだMJBTとの交流を企画してみたいと考えております。日本人会の皆様も積極的にMJBTの行事に参加されんことをお勧めします。

(編集部)

* MJBT便り第28号抜粋

インフォメーション

・ インター・ヤパーンマガジン1992年第一号(ドーマシコロ・イシュ

トバーン発行)が刊行された。序文には共和国元首ギユンツ・アールパード氏、日本外務大臣渡辺美智夫氏が寄稿
・ 在ハンガリー日本人会会報ドナウ通信は当協会にて、閲覧可能。

・ ハンガリーで初の日本語版ハンガリーガイドブック発行される。日本人観光だけでなく、日本語を学習している人にもいい教材となるだろう。価格は五百フォリント程度、左記の住所で入手可能

Bp. Cserezsnye u. 44

Ecoservice kft. tel/fax 186-9943

・ 日本人と文通を希望する方(日本語又は他の言葉でも)は、左記の住所に連絡を

Association of Pen Friend Club
of Japan

Hongo P. O. Box No. 100, Bunkyo-ku
Tokyo, 113-91 JAPAN

ハンガリー日本友好協会のプログラム

10月14日(水) 18時

I 区文化会館 Bem Isk. 6 にて

「日本工業の発達下における

人間の価値」

Dr トロム・アンドラーシュ講師

11月11日(水) 18時

I 区文化会館 Bem Isk. 6 にて

「日本の政治外交―国際社会に

於いて」

Dr コーシュ・ペーテル講師

12月9日(水)

I 区文化会館 Bem Isk. 6 にて

人事変更のための総会開催

1993年1月13日(水) 18時

I 区文化会館 Bem Isk. 6 にて

「現代日本の農業背景」

Dr マローツィ・ヨージェフニ―講師

2月10日(水) 18時

I 区文化会館 Bem Isk. 6 にて

「19世紀から20世紀にかけての

京都に於ける日本哲学学派」

Dr クンスト・ジョルジ講師

随想



「1294006」

吉岡 玲子

「1294006」

この数字、一体何かおわかりでしょうか。少し前までは、頭の「1」はありませんでした。そう、電話番号です。何の？

「ブダクシー！」

商社マンの妻として、ここブダペストに来て約4年、このダイヤル番号を何十回、いや何百回、いやいや何千回まわしたでしょうか。今では運転手さんの間で、ちょっとした有名人です。

心優しき(!?)夫は、彼よりもずっと早くから免許を持っている私に

「ここでは危ない!!」

の一言で、外国生活する上では、不可欠と思われる運転を許してくれなかったのです。

当初は、「ダチア」、「スコダ」、「ラダ」等、東欧の車(さすがに「トランプト」はありませんでしたが)が主流を占めていたブダクシーも、最近、ピカピカのベンツやBMW等が競って私を迎えに来てくれるようになりました。

地元の音楽家の方々と、少しでも交流を持ちたいと始めたハンガリー語もタクシーの運転手さん全員が、先生のようなものでしたから、何とか話せるようになり、目的を果たすことができました。

世の中の移り変わりと共に、物も豊かになり、ハンガリーの人々の心にも変化がおきているようですが、陽気で親切な運転手さん達の笑顔がいつまで

留学生コーナー

も絶えない国であってほしいと思いません。

・・・・・・・・・・・・・・・・

日本人が電話予約をする

「ヨシオカ？」

と言われ、

「ちがいます。〇〇〇〇。」

と、声を高められた方もいらっしやる
とか。お気を悪くなさったことでしょ
う。ごめんなさい。反対に、我が家に
いらっしやる折りに、住所を告げると
即座に

「キャンディはいかが？」

と声をかけられた方も・・・。

とにもかくにも、夫は無事任期を終
え、本日十月二十三日、「ヨシオカ」
は、帰国致します。もう御迷惑をおか
けすることもないでしょう。

日本の、そして、ハンガリーの方々
皆様に感謝をこめて・・・ごきげん
よう。

ハンガリーへの想い

三百五十日という期限つきの留学生
活。帰国を前にハンガリーの感想を述
べてみようと思います。

ハンガリーを代表する陶器Herend。

この陶磁器はその時代時代で色々なデ
ザインを提供してきました。たとえば
ホーフブルク家にまつわるデザイン、
東方から強く影響を受けたデザイン。
その柄はクロバーであったり、バラ
や鳥、蝶であったり。しかし共通して
いえることは、決して豪華な印象を与
えるものではなく（最近はそのうも
のもでてきたようですが）、むしろ簡
素で、ひなびた味わいを持ち、そのか
もし出される美しさに、暖かさや愛ら
しさ、柔らかさがでてくることです。
オレンジ色の光によって演出されるブ
ダペストの夜景。何と言ってもペスト
側から見た王宮一帯の夜景は、世界一
と言っても過言ではないでしょう。

その暖かく柔らかい光は、まさに幻想
の世界へ我々を誘ってくれます。

音楽界はといえますと、オペラハウ
スで演ぜられる「ラ・ボエーム」「ホ
フマン物語」は、まさにこのようなセ
ンスの光る出色の舞台ではないでしょ
うか。ミラノのスカラ座やウィーンの
シニョーラ・オーパー、ニューヨーク
のメトロポリタン等の巨大空間のもと
に演ぜられる圧倒的スケールのオペラ
とは全く違い、千二百人というキャパ
シティで演ぜられるその舞台は、決し
て華やかではないものの、無理なく、
自然に我々をその世界へ引き込んでく
れます。

ハンガリーのオーケストラの方はど
うでしょうか。やはりオーケストラも
決して華やかではなく、きらびやかな
音を持っているわけでもありません。
むしろハンガリー絵画に見られるよう
に、一種の土臭さといったものを持っ
ています。そしてそのスタイルは、何
か、人の琴線をやさぶるようなひめた

情熱を持っています。特に小林研一郎先生の指揮するハンガリー国立響の演奏に、私は何度、心をゆさぶられたことでしょう。それは圧倒的な力を持っているというよりも、むしろ、じっくりと心にしみ込んでくるような、そして心をとりにこにしてみようような暖かさにあふれた演奏なのです。

こうしてハンガリーを見てきますと付き合えば付き合うほどに味わい深い国だということになるのではないでしょう。か。ショッキングなことを期待する人の目には決してその良さはわからないのではないかと思うのです。しかしながら、40数年に渡る共産党支配は長すぎたように思われます。歴史的建築物の中に、無味乾燥なコンクリートの建物（共産党時代の遺物）が同居して良しとしているように、政治、経済文化のあらゆる面で、その当時の遺物が顔をのぞかせているということは残念でなりません。この過渡期をどうか無事にのりこえてくれるよう祈ります。

（松岡）



TV 掲示板 TV

平成クラブ オープン御案内

（ビデオテープ レンタル クラブ）

最近の日本のテレビ番組（ドラマ、バラエティ、ドキュメント、アニメ等）より収録されたテープを多数揃えました。

場所 Budapest H. Ziroshelyi u. 112

電話 176-9147

H I R O K O とお呼びください

営業時間 金曜日12:00~20:00

土曜日10:00~18:00

日曜日10:00~18:00

お気軽にお出掛け下さいます様お待ちしております。

四出井 旺子（しでい ひろこ）

やぶにらみ歳時記④

（M・英介）

一夜にして急に冷え込み霜を見た晩秋の朝、無風状態の中でプラタナスの葉が音も無く、間断なく散ってゆくのを見た。無常の哀しさを感じる時でもあった。そうしてハンガリーでは一年の中で一番暗いと云われる季節を迎えるのだ。季節の変わり目は何処でも雨がちと言うのが相場なれど、ハンガリーの秋から冬への移行はやはり戴けない。朝氣持ちよく晴れ渡ったと喜んでいると何時の間にか重たい雲に頭を押えられ昼食を済ませて出て見るとハンガリー語で曰く「ONOS ESŐ」に替っており路上は鈍く濡れて光っている。ONOSの語源を聴いて見たが分らない。チタンとか鉛の様な金属を言うのだが、きっと重苦しい纏いつく様な雨と、何時の間にか重く光る路上から生れたのかも、日本では小糠雨、中国では毛々雨とも云うが、これは春先の雨であり冬を迎えるONOS雨はやはり重い。明るい春は未だ遠いのだろう。

ハンガリー料理シリーズ⑤

—おばあちゃんから習った—

グヤーシユ・レヴェシユ 4〜6人前

桑島 カタリン

材料：牛肉（あればスネ肉） 600g

1センチ角切り（筋とる）

*スネ肉 *lbszt* ラープサル

じゃがいも 中4ヶ 角切り

にんじん 小1本 1ヶ

白にんじん 小1本 1ヶ

玉ねぎ 1ヶ みじん切り

パプリカ 1ヶ 丸ごと

トマト 1ヶ 1ヶ

ラード (*zsirjol*) 50g

パプリカ粉 小さじ1〜2杯

塩

クメーニマグ (*Kemény mag*)

*英語ではキャラウェイシード

すいとん 小麦粉・卵・塩を水

無しで堅くこねて、

小さくちぎる

作り方：①厚鍋にラードを溶かし、玉

ねぎのみじん切りを透き通

るまで炒める。

②次に肉をいれて一緒に炒め

る。この時、肉から出た水

がすっかりなくなるまで炒

めるのがコツ。同時に玉ね

ぎはこがしてはいけない。

③火からおろし、パプリカ粉

塩、クメーニマグを混ぜ、

パプリカ、トマトを丸ごと

入れ、ひたひたの水で、ふ

たをして蒸すように煮る。

④肉が半分ぐらい柔らかくな

ったら、にんじん、白にん

じんを加え、分量の水で煮

る。

⑤肉が完全に柔らかくなる10

分位前にじゃがいもを入れ

更に煮る。

⑥最後にすいとんをちぎり入

れ5分位煮てできあがり。

肉の固さによって、所要時間は違っ

てきますが、2〜3時間位が目安。



編集後記



“お別れ”

早いものです、今年も師走の声を聴いてしまいました。不景気木枯しの舞う日本はどんな年の瀬を迎えるのでしょうか。政治家達が世間のことは放って置いて他人の粗探しに現つを抜かした状態で本当に明るい年を期待できるのでしょうか。

ドナウ通信も、早くも四年の足跡を残してきました。来年からは、編集スタッフも一新することになると思いますが、この二年間、筆者が編集を担当、多くの皆様の御協力の下に十分自慢出来る内容をお届けすることが出来たと思っております。御支援ありがとうございました。

(江原 英治)